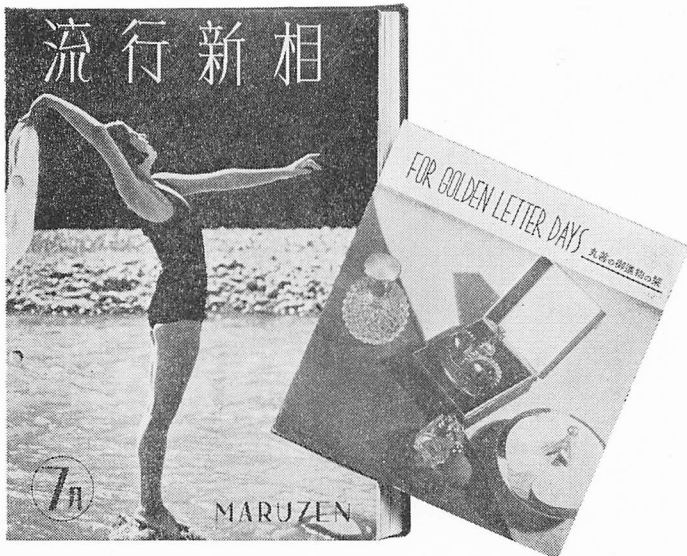


第十七章 洋品の業績

一 パラソルの味

次に洋物部について概説して見よう。この部では卸売と小売の両方を取扱っていた。卸売係では小売店の販売の便に供するため、昭和七年二月一日から「丸善洋物ニュース」なる印刷物を発刊し、十一年四月一日付第二十六号まで関係者に継続配布していた。このほかに、商品目録を毎年四季とりどりの商品について八種類発行し、また必要に応じ「季節の洋品」と題した宣伝用の冊子その他も発行していた。その中で昭和十二年三月に第一号が創刊され、以後毎月発行されたB4判の豪華な目録「流行新相」がある。今、この頃取扱った洋品・雑貨類の一覧表を掲げると左のように



「流行新相」と洋品カタログ

ある。

(一) 帽子

丸善特製――

セラフィック印ウール製中折帽子

セラフィック印ファー製中折帽子

セラフィック印麦稈帽子

セラフィック印シルクハット

セラフィック印中山帽子

セラフィック印学生帽

ヘンプハット（帝国製帽製）

(二) メリヤス類

丸善特製――

アテナ印――厚毛メリヤス 薄毛メリヤス クレープ

シャツ 婦人用肌着 コンビネーション 腹巻 猿又

スリップ オーバー 袖無ジャケツ ポロシャツ 襟付

運動ワイシャツ

輸入品――

中折帽子

英国（クリスチー社 ジェームス・ミル社

グリーン社 バッタスビー社 ワード社

リントン社 ロンバート社）

伊国（グロスワルツ社 ゼルボー社）

中山帽子

クリスチー社 ワード社 グリーン社

シルクハット クリスチー社

輸入品――

薄毛メリヤス 英国（ウォールゼー社 ラナ社

シャツ モーレー社）

ブルオーバー 英国（モーレー社）

かぶり型セーター 英国（モーレー社）

ブレモレックス印スモース地——シャツ 襦袢 プル カシメヤ短靴下 英国（モロー社 シェー社）

マ アンダーシャツ コンビネーション 猿又

アンゴレーヌ——シャツ ズボン 腹巻 ペチコート

ベッドソックス 寝間着

(三) 洋服

丸善特製——アテナ印ウエザーブルーフコート プレ 輸入品——ウエザーブルーフコート（英国エムコダイ

モレックス印ウエザーブルーフコート ン社 シデンハム社）

(四) 雑貨小間物類

ズボン吊り 胴締 腕輪 ガーター 靴ベラ カフス釦 カラー釦 櫛 スポンジバック ハンカチーフ 空気

枕 西洋剃刀 皮砥油 靴クリーム 白靴用チヨーク 安全剃刀 毛布 膝掛 羽根蒲団 クッション スカー

フ 肩当 洋傘

ここで掲げた安全剃刀は、丸善が総代理店であった英国製バレー自働研安全剃刀C普及型のことで、已に大正十一年九月従来のB型に代って輸入され、着荷毎に売切れになると云う素晴らしい売行を見せていた。このため特にその販売に力を入れ、昭和五年十二月十日「バレーニュース」第一号を創刊、各小売商店に頒布してその宣伝に努めた。しかし日華事変勃発後輸入困難に陥入ったため、国産品を以って之に代えることを考え、東京の平野製作所で製造した、アテナ自働研安全剃刀を昭和十四年十一月から売出した。

昭和6年頃の丸善の洋品

英・バーベリー社
レインハット……¥8.50

英・バーベリー社
レインコート……¥41.00
仏・エミール・ペバン社
ステッキ“籐”……¥110.00

英・Kブランドボックス
カーフ靴……¥37.00

丸善製空の旅用スーツケース“アヴィアトリ”……¥20.50

英・クリスティー社
中折帽……¥13.00
英・デラルー社
オノト万年筆……¥9.00
丸善仕立紺フラノ
プレザーコート
……¥21.50
丸善仕立鼠フラノ
替ズボン……¥21.50
米・ローヤル社
ポータブル
タイプライター
……¥180.00

英・トムモリスゴルフクラブ
12本セット……¥235.00

英・バレー自動研
安全かみそり……¥13.50
英・ベスコ社
ウールマフラー……¥12.00
仏・アンベルジェ社ネクタイ……¥10.00

仏・ジャンバトウ社粉おしろいセット
“カクテルパウダー”……¥120.00

丸善製グラッドストーンバッグ……¥30.00

仏・ジャンバトウ社香水セット
“カクテルセット”……¥550.00



パラソルをさす女性（共同提供）

また洋傘では新機軸を出したものを発売した。即ち、折りたたみ式洋傘の発売である。丸善が洋傘を販売した年代は明らかでないが、唐物店が洋物卸店と改称した明治三十一年以前、已に英国フォックス社日本代理店の手を通じて洋傘・日傘の骨を輸入し、これに国産の布地を張りつけて売出していた。その後何回かの改良が行われ、携帯に便利で、且つ軽く、時には日傘代りにも、ステッキ代りにもなるので、一部奇を好む紳士たちには至極重宝がられたが、何しろ当時としては値段も相当高かったので、充分普及しなかった。そこで宣伝効果の強い婦人層をねらって登場したのが「丸善の春の日傘」であった。

丸善のパラソルはモダン中に渋味と深味があると一般に評されてゐますが、此年流行の新品は特に無地好みのものが多く、裏張り地の色調が表地と色彩音楽的二重奏を成して有り来りの線や模様以上、如何にも超時代的な美感快感を喚起します。

これは昭和五年三月号の「学鑑」に載せられた広告文である。

果たせるかな、此の企ては一般婦女子の好みに投じ、「日傘をかざすこと」がモダン・ガールの表徴かの如く考えられ、日傘パラソルをうすぎ拈げた薄着の婦人や、水着姿のアブノーマルな女性さえ現われて公園や繁華街を闊歩

する程の流行を見た。しかし洋傘の本来の目的は雨傘であり、パラソルは太陽光線の直射をさけるのが主な目的で、装飾品と見られていたから、当時としては十一円以上という高価であつたため、一般の需要を満すことが出来なかつた。そこで、昭和七年一月頃から実用的な「婦人用雨傘」を英国から輸入してこれ売り出した。

その時の広告文には、

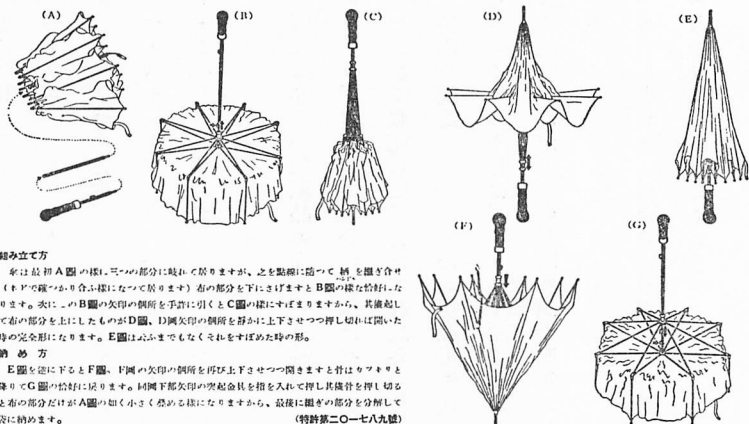
在来の紙張り雨傘よりは耐久力の大きな点から比べると反つて安価と云へる黒毛縹子張洋傘——生地は英国製比較的薄手^{うす}で軽くさしよく、雨に対しても丈夫なこと無類です。

と謳っている。その販売価格も三円八〇銭と言へば、まず手頃なものだと言えよう。この販売状況は至極良好だつたので、紳士用の実用的な雨傘をも輸入して売り出したが、何んと云つても「折りたたみ式」の洋傘の発明と売り出しは、奇を好む紳士の需要以外にも、携帯に便なる点から一般人士に珍重された。今日、サラリーマンの殆んど凡てが、日常生活の必需品として重宝しているこの便利な雨傘が、今から凡そ四十年前に、丸善の創意工夫によつて製造され、市場を賑わしたことは全く驚異に価する。しかも新案特許第二〇一七八九号で登録している点から言つても、自信に満ちた当事者の態度が窺われ、広告文からもその一端が察せられる。即ち——

分解簡単・体裁よく・携帯至便

折り畳み傘

雨傘にしてもスビーディな時代には、それに即する様な所産があつていゝ筈。勿論畳めるといふ着想は既にあつたにしても斯う迄合理的に畳めるのは無かつたと思ひます。あの持ち運びに不便な雨傘が、どんなに便利に



組み立て方

傘は最初 A 図の様に、可憐の部分に破れて居りますが、之を裏面に附つて 柄 を隠さず合せて（トドで縫つたり合ふ様になつて居ります）右の部分を下に下げますと B 図の様な状態になります。次に C 図の矢印の箇所を左手に引くと C 図の様に上げますから、其後起して右の部分を上にしたものが D 図、D 図矢印の箇所を右側に上下させつつ押し切れば開いた時の完全形になります。E 図はふふまでもなくそれを上げた時の形。

納め方

E 図を逆にしたと F 図、F 図の矢印の箇所を再び上下させつつ開きますと柄はカフネリと降りて G 図の如くになります。同様に下部矢印の突起金具を指を入れて押し其突起を押し切る。右の部分だけが A 図の如く小さく巻める様になりますから、最後に開きの部分を分解して袋に納めます。
(特許第二〇一七八九號)

折りたたみ傘の仕組

なつたか、しかもひろげた時、生地がたるまず、接続次々に具合よく、またあけたてには、ぢきが吸ひ込まれる様な調子の感じよさは、どうぞ御試用に俟つてお聞かせ下さい。」
(昭和十一年六月月号学鑑広告文より)

その機構の詳細は挿入図の説明によって明らかであるが、ただ今日流行を見ているものと異なるところは、傘と柄の部分とが分離し、更に柄が二つの部分に分かれてゐる点である。

(五) 化粧品類

この頃になると輸入化粧品のほかに丸善特製の化粧品の種類は極めて多くなり、昭和八年の化粧品目録によると、左の十四種を挙げることが出来る。

丸善ベールラム 丸善ヘアトニック 丸善オールドコロソ 丸善ラベンダーウォーター 丸善オールドキニーン ミルク・オブ・キューカンバー ベールラム・コスメチック ベールラム・ポマード アテナポマード 丸善薬歯磨粉 丸善歯香水 丸善浴用石鹼 丸善ローズ石鹼 丸善アテナ石鹼

更に昭和十四年には右の外、

ペーラム・ヘヤクリーム ペーラム・ギフトボックス 丸善水歯磨 香水エロイカ 香水ボロネーズ 香水ソワ
レ 香水ゴヤ 香水プチゴヤ ゴヤ・ローション ゴヤ・クリーム タイス・オードコロン 丸善オードコロン
ゴヤ・スキントニック 香水オットー 香水バルカン 丸善モルサップ メロール・ローション メロール・ギフ
ト・ボックス サンドル石鹼 フルール石鹼

因にこれらの化粧品のうち、丸善バス・ソープは成和商会、アテナ石鹼とローズ石鹼とは芳誠社で製造し、ゴヤ、エロイカ、ボロネーズ等の香水はバーター・トレードにより、ブルガリヤからモルトを輸入し、内外製網株式会社で加工して販売した。またこれ以外の化粧品は、早矢仕有的の女婿和田治衛及びその子の耕平が経営する横浜の丸善薬店で製造していた。なお現在男性用化粧品エロイカとして、カネボウ化粧品から宣伝発売され好評を博しているエロイカの名称は、イタリー語で英雄を意味し、丸善の創案に懸わるもので、逸早く昭和七年八月九日に商標登録を済ませたが、その後昭和四十四年二月十七日にこの商標登録をカネボウ化粧品に譲渡し、今日に至っているのである。

今、丸善が取り扱い並に販売した外国製日用品の輸入額の昭和十二年度一か年の推定記録が現存しているから、それを左に転載しておこう。

これによつて、取引先数四二、取扱品目は化粧品・文房具・洋品・雜貨等十七種類に上っている。

	England	Valet Safety Razor & Blade	£90,000
Gillette Industrie Co.	"	Felt Hat	6,000
Christy & Co.	"	Hosiery	1,500
Allen Solly & Co.	"	Necktie etc.	600
H. T. Green Law & Co.	"	Hosiery	3,000
Innes Henderson	"	Necktie etc.	900
J. H. Buckingham & Co.	"	Coat & Coating	9,000
Barberry Ltd.	"	Shirting	3,000
William Hollins & Co.	"	Hosiery	3,000
Worley Ltd.	"	Hosiery	4,500
Dent Allcroft & Co.	"	Coat & Coating	4,500
Aquascutum	"	Shirting	4,500
Collular Clothing Co.	"	Hosiery	12,000
Jaegers Ltd.	"	Hosiery	30,000
J. & R. Morley	"	Hosiery	9,000
Welch Margetson & Co.	"	Felt Hat	4,500
Battersby	"	Felt Hat etc.	6,000
Clyn Agency	"	Coat & Coating	3,000
Tyler Brothers	"	Hosiery	3,000
Peter Scott	"		

Total Amount: £198,000

A. Stein Co.	U. S. A.	Garter Belt etc.	\$9,000
John B. Stetson	"	Felt Hat	15,000
Heacock	"	Belt Buckle, Cuffbutton	9,000
Potter Drug & Chemical Corp.	"		15,000
Colgate & Palmolive Co.	"	Toilet Goods	150,000
Acme Staple Co.	"	Fastener & Staple	15,000
Kelox Co.	"	Carbon Paper	6,000
L. E. Waterman Co.	"	Fountain Pen & Pencil	15,000
Fire Proofing Co.	"	Sharp Pencil & Steel Cabinet	9,000
Robert's N. Co.	"	Numbering Machine	9,000
Bate's N. Co.	"	Numbering Machine	9,000
E. Faber Co.	"	Pencil & Lead	1,500
Eaton Crane Co.	"	Stationery Box	3,000
De La Rue Co.	England	Fountain Pen	30,000
George Huges Co.	"	Pen	3,000
Hink's & Co.	"	Pen	3,000
Perry & Co.	"	Pen	4,500
Golden Gotch Co.	"	Fulls Cap	6,000
Castell Brother Co.	"	Letter Paper & Envelope	3,000
C. Gecobowitz Co.	Germany	Wellington Paper Fastener	6,000
Soennecken's Co.	"	Office Equipment	30,000
A. W. Faber Co.	"	Castell Pencil	3,000
Steadtler Co.	"	Pencil	1,500

Total Amount : \$ 355,500

二 洋物部の展覧会

洋物部に於ても各種の展覧会を催したが、この企ては図に当たり、他の一流百貨店にも波及し、時ならぬ展覧会ブームを捲き起した。即ち丸善がその魁をなしたものと云えよう。試みにその二、三を拾って見ると次のようなものがある。

展 覧 会 名	会 期	会 場
珍奇皮革展覧会	昭七年七月一日～十五日	本店売場
匂ひの展覧会	昭八年五月一日～十日	本店別室
今日の帽子展覧会	昭九年九月二十五日～十月一日	本店売場
ブルノー・タウト指導小工芸品展覧会	昭十年十一月十五日～二十一日	本店別室

(一) 珍奇皮革展覧会

主としてパリのコアペル商会の手造品てづくりが出陳されたが、資材の原皮は、

蜥蜴(数種) 蛇(数種) カメレオン 駝鳥 禿鷹 鵠くわい トナカイ 野猪 カンガルー 海豹(数種) 海驢わしふ

鮫(数種) 鮭 がま 鰻 亀 食用蛙 蝥 鰐

等全部ウィーンなめしで、更にそれによって作られた紙入、ドル入、ハンドバッグ、煙草入れ、宝石函などが陳列

された。のちこれに倣って、鰐、蛸、蜥蜴の袋物、野猪の手袋等が市場に現われて、女性の間に普及したのは、この展覧会の影響によるといわれている。この展覧会は非常に好評であったから、引き続き会場を仙台、福岡、京都、大阪の各支店にうつして開催され、いずれも本店に劣らぬ人気をよんだ。

(二) 匂ひの展覧会

この展覧会には、フランスの香水製造専門会社の中から、Guérain, Caron, Coty, Houbigant, Millot, Rallet, Lenthéric, Prince Machaveil の八社と、衣裳店兼香水製造業者の中から、Jean Patou, Lucien Lelong, Chanel, Lanvin, Weil, Worth, Molyneux の七社を選びその代表品を輸入出品すると共に、明治初年以來わが国に輸入された歴史的な香水として左表の各種をも、苦心蒐集の上展示した。

年 代	香 水 名	備 考
明治当初	滝香水	レットテルの中央に噴水の壺の図柄有。当時の人が之を滝と見誤る
明治十年頃	おいらん香水 団十郎香水 豚香水	日本向き製品としてレットテルに、おいらん（遊女）団十郎（役者）の図あり
日清戦争後 日露戦争後	ヘリオ香水 赤箱香水 シクラメン香水	原料ヘリオトロップ 意匠赤箱入り 原料シクラメン

これらの展示香水には一々その香風や用途或いはエピソードを記した説明書を添えた。また面白い企ての一つとして、香料の基本的種類としての動物性香料四種、植物性香料一六種合計二〇種の匂いを音階にあてはめ、例えば薔薇はド、ヘリオトロップはレと言う風に定め、AとB、CとDとの匂いを組合せた時、調和するものと、しないものがあるが、これを音符で示し一目瞭然たらしめた。更に会期中は毎日特異な匂いを持つ香料一種を焚き、バリの風物詩を場内一杯に漂わせた。

因に「匂の話」という小冊子を凡そ三、〇〇〇部印刷しこれを配布したが、これには匂いの起源・沿革・挿話・香料の原料・香水の選び方・使い方及び現代の有名香水会社の経歴について説明を加え、大いに好評を博した。

(三) 今日の帽子展覧会

この展覧会は已に六年前の昭和三年に開かれたことがあったが、今回は時代もその時と違っているから、それだけに別な意義があったとも言えよう。そうしてこの時出品されたものは

一、帽子の歴史的展覧

三〇点

二、文明国に於て用いられてゐる特種用途の最近の帽子

一五点余

三、現代の中折帽子の種々な形と其の由来

一〇点余

四、明治初年以降日本に流行した帽子の変遷の時代的出陳

一二点

五、今日の流行帽子

数こそ前回に比して少なかったが、それだけによく整理精選し、観客の理解を深めた。殊に此の際配布した約五千部の「帽子の話」と言う小冊子には、帽子の発達史、現代世界各国の優秀帽子製造会社、帽子の種類と形などがよくまとめられていて、見る人の帽子に関する知識を助け、格好の文献として喜ばれた。

(四) ブルノー・タウト指導小工芸品展覧会

ブルノー・タウトは世界一流のドイツの建築家で、来朝後日本建築を特別の視野から観察し、「伊勢神宮の素樸な建築美は、世界にその比を見ないもの」と嘆賞し、当時わが国に澎湃として起りつゝあった国粹主義者たちをいたく感激せしめた。彼は昭和八年我が国に渡船してから、余技である工芸品に対しても強い関心を寄せ、これに改良応用を加え、現代風の商品として世界に進出せしめようとする意図から、高崎在住の工芸家井上房一郎と協力し、製作者たちの指導に当った。そしてその作品の展覧をしたのがこの展覧会で、

室内装飾具 身辺細貨類 食器 織物 衣類 家具類

の全般に涉つて陳列した。品質は金属製品、木竹製品、ガラス器、漆器等で、斬新な趣きは観客を驚かし、即売成績も相当なものであった。そこで昭和十一年十一月には第二回展を開き、新しい観客を集めて好評を博した。

三 事務用器械と文具

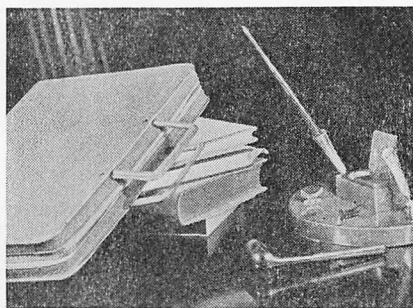
事務用器械類の取扱いは文具部の所管に属したが、日華事変後外国からの輸入が困難となつたのに引き換え、却

ってタイプライター、計算機等の需要が増すという皮肉な現象が起った。そのため所管事項も増大したので、昭和十一年六月新たに器械課を設けた。よって文具部は従来の販売課を改称した文具課と仕入課、それにこの器械課との三課制を採ることになった。これと共に国産品の製造販売の必要に迫られたので、各品目を選び、それぞれ下請工場を指導督促し、製作に専念させた。丸善としては初めて、工業専門学校卒業者二名を採用したのもこれの為であった。ここで煩を避けるため、その一覧表を左に添付しておく。

種 目	機 械 名	年 次	備 考
自動番号器	丸善B型三様式 丸善A型五様式 丸善SA型九様式 モノローKAA二〇三型計算機(電動全自動式) モナークポータブル計算機 ファシット計算機 モノローSS型計算機	昭和七 昭和八 昭和十一 昭和六 昭和八 昭和八 昭和九	横浜平戸工場及び東京二葉製作所製 米国モンロー社より輸入 米国ダルトン会社より輸入 スエーデン製 米国モンロー社より輸入
計算機	丸善計算機(十四・二十桁) 丸善数字打抜機 トルソン・タイムスタンプ 丸善タイムレコーダー 丸善ロンド輪転謄写機五号 〃十号(自動給紙装置及インク自動補給装置付) 〃六号(自動給紙装置付)	昭和十三 昭和四 昭和十二 昭和十四 昭和六 昭和八 昭和十二	神戸西宮太陽計算器株式会社製 東京近藤商会製 米国トルソン社より輸入 大阪時計電気工業株式会社製 京都第一製作所製
手形用数字打抜機			
タイムレコーダー			
謄写機			

には、上海と天津に店を持っていた木村公司を代理店として輸出を行った。

General Export CATALOGUE of STATIONERY



MARUZEN CO., LTD.

Nihonbashi, Tokyo, Japan.

輸出向文房具カタログ

ここで特に注意すべきことは、国産文具類の海外輸出である。

国産文具類の海外輸出は、昭和七年頃から開始したが、市場開拓の程度に過ぎず、種類も番号器、くり出し鉛筆など数種に限られ、金額も数千円にすぎなかった。それが昭和十一年になると、欧州の逼迫した国際状況は、従来の顧客であった、イタリー、ポルトガル、エジプト、シリア、パレスティン等諸国への輸出を阻んだから、濠州、南米の諸国への貿易に力をそぐようになった。その結果、アルゼンチンは比較的高級品の需要が多かったので、昭和十年以降十四年の春までは、その主都ブエノスアイレスにあるマキシモ・シュリユセルベルグ社を代理店として交易を行い、以後は更に同地のラインボートドラ社に変更して交易をつづけて来た。また濠州への輸出はオノト万年筆の代理店をしているシドニーのノルマン・ベーカー・アンド・ロンクハースト社と代理店契約を結び、更に中国向け

「ペンを持つ人皆アテナ」

これは昭和十二年六月に丸善アテナインキの標語を公募した時、一等に当選した作品である。この外二等二席は「アテナの商標インキの目標」「アイウエオから親しいアテナ」また、三等三席は「ペン字の世界に輝くアテナ」「終始鮮色」「文化の蔭にアテナの光」であった。時宛も帝国飛行協会が民間航空充実資金を募集しており、また逓信省は愛国郵便切手を発売したので、丸善は両者に協力して、航空愛国郵便はがき或いは愛国切手四銭貼付の私製はがきを以って応募用紙とした。その結果、応募総数二〇五、七五三通のうちから厳正審査のち前記六種を入選作と定めた。賞金は一等三〇〇円、二等一〇〇円、三等五〇円等で、副賞として帝国飛行協会から寄贈された六七個の飛行機模型を記念品として四、五等入選にいたるまで贈呈した。尚、この時愛国切手と愛国はがきによる帝国飛行協会への寄贈金は五、三〇〇余円に達した。インキ部が洋物卸部から独立したのは大正十四年九月で、それ以来、特にインキ及墨汁の大口卸売に力を容れそのためには、昭和十三年八月までの十三年間に、四四回に及ぶ特価販売を行い宣伝に努めたのであった。その甲斐あって鉄冠を頭にいたゞいた瀟洒なギリシャ戦士の商標と「丸善アテナインキ」の名声は、日本全国の津々浦々に拡まって行った。丸善墨汁も又これを逐って広範囲に進出したのはいうまでもない。今その多彩な種類を昭和十三年四月発行の丸善インキ目録によって拾って見ると、

万年筆用 丸善アテナインキ（黒・赤・青）オリオンインキ（黒・青）

筆記用 丸善真黒インキ センチュリーインキ（黒・赤・青・紫）丸善インキ（黒・赤・青・緑・紫）

特殊用 丸善製図用インキ（真黒・赤・紅・橙・青・藍・鼠・緑・紫・堇・黄・茶）

丸善青写真用インキ（白・赤・緑・紫・黄・茶）

丸善チェックインキ（真黒）「証券類記載用」

丸善自記用インキ（黒・赤・青・紫・緑・黄・茶）「地震計・乾湿計記載用」

丸善コピーインキ（紫）

丸善早刷用インキ（紫）

丸善スタンブインキ（紫・真黒・赤・青・緑）

丸善墨汁・丸善朱墨汁・摺込用丸善墨汁（荷物包装用木箱、木材等に摺込むもの）

墨 汁

丸善アテナインキと共に忘れられないのは丸善アテナ万年筆である。云うまでもなく国産万年筆界の第一級品であるが、これが多量に生産販売されるまでには、文字通り血の滲むような苦勞を経験して来た。丸善が国産万年筆の製造に手を染めたのは遠く大正三、四年頃で、その最初ものは米国ウォーターマン万年筆の形を模したゼニス万年筆であった。専属の下請工場に命じて試作して発売したが、やはり丸善の顧客は輸入品を購入する傾向が多分にあったから、ゼニス万年筆の売行きは思わしくなかった。そこで幾許もなくその製造を止め、新たに英国製オリオン万年筆を模したグローリー万年筆、オリオン万年筆の二種類と、他に軸が透明で外部からインキの量が見分けられるアルビオン万年筆を製作販売した。後者はその珍奇な趣向で人気をあつめたが、前二者は国産と云う名の下の輸入品の販売高には及ばなかった。しかし丸善では決してあきらめなかった。下請業者を指導鞭撻し、その研究



線出式



ルネッサンス型自吸式

アテナ万年筆

を助けて唯^{ひたす}品質向上に望みを托していた。そうした中であって坂斉栄三郎は、特に研究心に富み、熱心に協力した。そこで前述の三種の万年筆の製造を促進すると共に、彼に資金を提供し、独特の国産万年筆製造を依頼した。かくして出来上がったのが丸善アテナ万年筆で、大正十四年頃から店頭を飾り、その外形の清楚、機構の精密、インキの出しの良好等、輸入品に劣らぬ優秀さは、忽ちにして顧客の賞賛を博し、積年の苦勞を一挙に払拭した。そこでこれまでの万年筆の製造を止め、アテナ万年筆一本立にした。坂斉はその後丸善に協力して研究改良をつづけ、期待にそむかぬ製品を提供した。しかし昭和十二年に病歿してから、その業を継ぐ者がいなかったため、昭和十三年三月二十二日、丸善は荏原区（現品川区）中延にあった坂斉の工場を買収して丸善荏原工場とし、アテナ万年筆の自主製造に乗り出した。